

| 出題分析  |                        |                        |
|---|------------------------|------------------------|
| 試験時間 90分  | 配点 文 200点<br>情－社会 400点 | 大問数 5題                 |
| 分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加〕   | 同程度                    | 難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕 |
| <p>【概評】</p> <p>昨年度までは4題構成であったが、歴史総合範囲から世界史と共通の出題が1題加わって5題構成となった。歴史総合は350字論述で、日本史では初の大論述。Ⅱ～Ⅴは例年通りの1～4行の論述問題および短答記述で、日本史探究の古代～近現代までが出題された。歴史総合の論述が出題された分、Ⅱ～Ⅴの論述量は25行と減少して短答記述問題が増え、全体の分量は概ね昨年度と同程度に調整された。設問は史料などを踏まえて考察した上で論述することを求められる問題が一部見られる上、Ⅰの歴史総合の大論述には戸惑った受験生も多いであろうが、例年より解答に悩まされる問題は少なく、昨年度より易化したといえる。</p> |                        |                        |

| 設問別講評 |               |   |     |
|-------|---------------|---|-----|
| 問題    | 出題分野・テーマ      | 設問内容・解答のポイント  | 難易度 |
| I     | 近代の中国         | 歴史総合範囲からの出題。手塚治虫の漫画を題材に、義和団戦争に関する背景と経緯が問われた。日本史探究の知識でもある程度対応可能であるが、洋務運動や戊戌の変法に関する理解などは歴史総合の学習成果が問われ、差がついたであろう。  | 標準  |
| Ⅱ     | 古代の政治・外交      | 飛鳥～奈良時代の政治・外交について、国内外の史料を用いた出題。古代の東アジア外交に関するやや深い理解が問われた。問1. 設問文の「倭国王の擁立」には語弊がある（擁立後の遣使で倭国王として冊封された）。また、「その前後の倭国内の政治動向」の条件にも戸惑う。そもそも史料が乏しいため言及しにくい事柄である。問3. 4つ国の関係を整理して述べる必要がある。 | やや難 |
| Ⅲ     | 中世の東北・北陸・関東地方 | 中世の各地域間における交流や王権との関係、遺跡の特徴など、近世範囲も含めて様々な観点で問われた。設問の意図がわかりにくい問題も見られたが、実質的に一問一答的な設問が多かった。問3. 空欄アはやや難。問4. 空欄イには「雪」が入るが、「越後」「随筆」で十分想起できるだろう。  | 標準  |

| 設問別講評 |               |  |     |
|-------|---------------|--|-----|
| IV    | 近世～近代の蝦夷地・北海道 | テーマ史としては頻出の蝦夷・北海道史についての問題。問1～3. 江戸時代における蝦夷地支配に関して問われた。いずれも頻出の内容で、教科書の記載内容から十分に解答できる。問4. 樺太支庁廃止の理由を問うものだが、「1875年」から樺太・千島交換条約を想定できるだろう。問5はやや細かいが、北海道史では重要用語。   | 標準  |
| V     | 近代・現代の女性史     | 大正～戦後期の女性の運動に関する史料やグラフを用いた出題。論述問題は、いずれも史資料の分析・考察が求められる応用的なものであった。問1. いずれも近代の女性運動家としては重要人物。問2. 太平洋戦争期の市川房枝の活動についての出題。市川房枝といえば婦人参政権運動の人物として知られているが、引用史料から女性の戦争協力を説いていることを読み取り、その主張の理由を考察する。問3. 戦前と前後の女性の就労率のグラフにもとづく問題。戦前の方が就労率が高く、戦後では20代後半にグラフが大きく下がり、30代以降も下がったまま横ばいとなっている。戦前と戦後の違いを読み取ることはたやすいが、その理由の説明を求められると、なかなか難しかったと思われる。 | やや難 |

#### 合格のための学習法

名古屋大学の日本史は、論述問題の割合が多い。一問の論述量は多くても100字程度であるが、小問数が多いので、迅速に解答を作成する必要がある。問題の傾向として、史料など与えられた題材から考えさせるような応用力を求められる問題やかなり細かい知識を必要とする問題も各大問でいくつか出題され、受験生にとってはかなり難しい印象を受けるだろう。対策としては、まず教科書をしっかりと読み込んで、その内容を深く理解することである。そして60～100字程度の論述問題を数多くこなして、内容を解答用紙の範囲内にまとめるコツとスピードを身につけることが重要である。また、歴史総合についても、日本史探究の近現代範囲と関連させながら学習を深めておく必要があるだろう。